

この会社にきた理由がわかった

1000日間

学校法人 登別立正学園

企業で活躍する若手社員の紹介

社員採用側と就職活動側、お互いのゴールは「入社」ではなく、「定着」から活躍であることは周知であると思う。せっかく人材のマッチングが行われ入社に至っても、定着までにかかる日数が業界それぞれに存在する。

『定着までの心理と時間の谷』
その多くは1000日に現れることが多いと言われている。
『谷を越えて来た』9人のインタビューから、それぞれの背中を押したポイントを探ってみたい。



定着成功、3つのポイント

- ・本人の圧倒的熱意
- ・先輩たちの適切な関与
- ・会社から定着への体制強化の見える化

幼稚園の先生しか考えたことはありませんでした。

私の場合、将来なりたい職業はずっと幼稚園の先生でした。

幼少期に私を見てくれた先生が、そのまま憧れになり、目指す仕事になり、今日まで追っかけてきました。小さな子供のころの夢を持ったまま、学生時代などにも折に触れボランティア体験や進路相談など、その時々再確認して具体的にしているという感じです。

進路決定にネガティブな情報はあまり左右されませんでした。

進路を決めていく過程では、地元を離れて進学しなければならぬこともあつて様々調べました。

就職には資格・免許の取得が一般的だと知り、しかも保育士と幼稚園教諭など2つ以上の免許資格を取得する人が多いということも知りました。そんな中、実際の就労状況は『忙しい大変』などの情報がありました。私にとって夢に近づくことのほうが大きいことで、気持ちを妨げるものではありませんでした。



就職活動は地元で就活と決めていました。

進学では地元を離れることもあり、就職活動は地元に戻ってきてという目標を持っていました。

就職活動は1か所、ここしかありません。私が幼少通っていた、ここ「登別立正学園」です。当時私を受け持ってくれた先生は、別園ではありますが、園長先生として一緒に働いています。

働く環境では、たくさん

応援してもらっていると感じています。

ここ10年程で幼稚園教諭・保育士の求人への応募は減少した、と聞いています。

自分自身が家族を持ったのちの仕事の継続や日々のスキルアップ応援も職場は考えてくれていると感じます。

その環境を作ってきた先輩たちが、必ず後輩の私たちを見てくれていて、気付きの再確認とサポートを繰り返してくれています。

年長さんを送り出す年となった私も、先輩にそうできるようになっていきます。